

平成 29 年度（第 47 回）栗東歴史民俗博物館協議会の概要

- 開催日時 平成 30 年 2 月 1 日（木曜日）14 時 00 分から 15 時 45 分まで
- 開催場所 栗東歴史民俗博物館 会議室
- 出席者
協議会委員 西尾 悦子（会長）、中野 光一（副会長）、石丸 正運、大橋 信弥
川波 重和、澁江 善光、月野 みつ、山本 喜三雄
の各委員（8 名）
- 事務局 三浦 英幸（スポーツ・文化振興課 課長 兼 歴史民俗博物館 館長）
谷郷 喜英（歴史民俗博物館 副館長）
大西 稔子（歴史民俗博物館 主幹）
中川 敦之（歴史民俗博物館 主査）
の 4 名
- 欠席者
協議会委員
山内 君代 委員、吉見 静子 委員
- 傍聴者 0 名

概要

1. あいさつ
2. 協議事項
 - ①平成 29 年度博物館事業について
 - ②平成 30 年度博物館事業について
 - ③その他
3. 閉会

議事

1. あいさつ

西尾 悦子 会長

三浦 英幸 館長

事務局職員の紹介

2. 協議事項

②平成 29 年度博物館事業について

資料に沿って、事務局 大西 稔子 主幹より説明

(委 員) 「まちづくり出前トーク」とはどのようなものか。

(事 務 局) 広報課でメニューをとりまとめており、歴史民俗博物館では歴史や文化に関するメニューを用意している。広報課にお申し込みいただいた上で、歴史民俗博物館の職員が対応している。

(委 員) 昨年度に、収蔵庫での漏水対策として防水工事を実施したかと思うが、収蔵庫のキャパシティーについてはどのような状況か。

(事 務 局) 収蔵庫は 4 つあり、いずれも多く資料を収蔵している。特に、民俗資料を収蔵する第 2 収蔵庫は飽和状態である。仏像など収蔵する特別収蔵庫のスペースには比較的ゆとりがある。

(委 員) この協議会のあとに、収蔵庫を見学することは可能か。

(事 務 局) この人数での見学には導線の確保の必要があり、難しい。別途、日程を設けさせていただきたい。

(委 員) 寄贈資料のうち、「東海道五十三次之内 石部 目川里」を展示する予定はあるのか。

(事 務 局) 同じ版の浮世絵は他にも収蔵しており、これまでも紹介したことがある。今回ご寄贈いただいたものも含めて、折に触れて紹介していきたい。

(委 員) 歴史民俗博物館の運営上、こういった課題があり、どのように解決しているのか。

例えば、入館者数が少ないなどといった課題があるのか。

(事 務 局) 最も大きい課題は、施設の老朽化である。収蔵庫の防水工事は完了したが、空調機の老朽化も進んでいる。

また、栗東市では現在、財政再構築のために取り組んでいる（新）集中改革プランの途上にあり、歴史民俗博物館も財政的に厳しい運営となっている。例えば、広報にかけられる費用も限られており、栗東市内であってもチラシやポスターの配布・掲示が十分に行き届いていない面がある。インターネット上での広報にも力を注いでいるが、インターネット上の情報を得にくい世代の方もおられることへの配慮は必要と感じている。

その他、長年にわたって少人数での運営となっている。平成 30 年度の予算編成にあたって、職員数の増加についても要望する中で、2 名いる歴史民俗調査員（臨時職員の学芸員）の出勤日数を 1 か月あたり 2 日ずつ増やすことができた。

（委員） 栗東市内の小学校では例年、平和学習の一環として広島を訪れている。歴史民俗博物館では、平成 29 年度には 9 月に「平和のいしずえ」展が開催されたということだが、小学校では 9 月には運動会の時期となっており、校外学習に組み込むのは難しいタイミングとなる。栗東市内で平和学習をする機会があれば、という思いもあるので、歴史民俗博物館の事業日程を組む際に、小学校の行事予定も勘案してもらえれば、利用促進につながるのではないかと感じる。

（会長） 栗東市内の 9 小学校全てを同時に受け入れるのは難しくても、年度ごとに対象とする小学校をしばってローテーションするなど、学校行事として利用してもらいやすくなるよう工夫をしてはどうだろうか。

（委員） 施設の老朽化に関連するが、収蔵庫の空調管理は万全なのか。

（事務局） 現状では、空調機の稼働に明らかな支障は生じておらず、文化財の収蔵に適した環境も確保できている。経年劣化による突発的な故障のリスクは高まっており、突発的な故障しにより空調機の運転が全くできなくなった場合には、大きな支障が生じることから、抜本的なリニューアルが必要な時期に差し掛かっている。

（副館長） 開館から四半世紀を経過し、故障のリスクは確実に高まっている。保守点検業務を委託している業者などからの指摘を受けた場合、随時修繕などの対応はしているが、抜本的なリニューアルが必要なのは間違いない。

（委員） 抜本的なリニューアルが必要なものもあれば、簡易な部品交換などで済むものもある。保守点検の結果なども踏まえ、計画を立てることが必要と感じる。

（委員） 栗東歴史民俗博物館のように、博物館法でうたわれている入館料無料の原則にのっとっている博物館は珍しく、市立の博物館では全国でも数えるほどしかないと思う。

博物館にとって展示は大切だが、調査研究や資料収集も大切な仕事である。調査研究や資料収集といった仕事には、学芸員の力量が必要になる。取り止めることとなった講の資料が博物館に寄贈・寄託される例からも分かるように、地域や所蔵者が持ちきれなくなった文化財の保存に関して、博物館が果たす役割についても考えていかなければならない。

博物館は社会教育施設として位置付けられているが、最近の文化財保護法の改正に議論では、博物館に関する制度の見直しや、文化財の公開を

さらに促進すればよいという話などが話題となっている。教育の根幹をなす重要な課題と思うが、十分に議論を尽くされているとは言えないように感じる。

現在の教育制度では、大学まで進んでも 22 歳で卒業する。人生 80 年の時代にあって、学校教育を終えたあとの生涯学習・社会教育を誰がどのように担っていくのかという、根本的なことを考えていく必要がある。博物館の入館料無料の原則に取り組んでいる栗東市が、歴史民俗博物館の収蔵庫の増床や学芸員の増員などに取り組むことができれば、全国的に見ても良いモデルケースになると感じるので、必要な経費などについては予算要求をしていってほしい。

(委 員) かつての栗東歴史民俗博物館は展覧会開催事業が非常に盛んで、この協議会でも多すぎるという意見も出ていた。現在は以前より展覧会の本数は減っているが、様々な切り口の展覧会を開催しておられると感じる。できる範囲で工夫していくことが大切であり、現在のような事業を継続していったらどうか。

(副 会 長) 平成 29 年度の上半期に、ホームページのアクセス数が減少しているのはなぜか。

(事 務 局) 平成 29 年 3 月に栗東市役所のサーバーを更新したあと、一時的にカウンターが停止してしまったのが原因である。現在では復旧し、平成 30 年 1 月には、昨年の同月と比べても遜色なく、実際には例年どおりのアクセス数があったと考えている。

(副 会 長) ホームページも良いが、SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）の活用も検討すれば良いと思う。チラシなどは、SNS を使った PR が効果的だと感じる。博物館に興味・関心を持っている児童や生徒もいると思うので、入館数の増加につながるのではないだろうか。

チャレンジウィークや博物館実習を受講した生徒・学生が、どのような感想を持っているか教えてほしい。

(事 務 局) 中学 2 年生が対象のチャレンジウィークでは、小学 3 年生が受講する博物館教室「昔の暮らし」の説明を体験してもらっている。数年前に自分自身が受講した博物館教室の実施に関わる中で、準備や説明に苦労したが、面白かったという感想が多い。

(副 会 長) 将来の学芸員の育成につながる可能性もある事業であり、力を注いでほしい。

(館 長) 広報のあり方について、ご指摘いただいたようなホームページや SNS の活用も重要だが、一方では紙媒体での広報を重視する世代もある。様々な広報のあり方を考えたい。

- (委員) 学校との連携を考える場合、スケジュールが優先される。他の博物館でも、事業の内容云々ではなくスケジュールの調整に難渋し、学生の来館数は伸びにくい傾向にある。学校との調整は必要不可欠である。

③平成 30 年度博物館事業について

資料に沿って、事務局 稔子 主幹より説明

- (委員) 博物館教室「昔の暮らし」での「昔」とは、いつ頃のことを指すのか。
- (事務局) 旧中島家住宅が建てられた約 150 年前から、数十年前の高度経済成長期までを「昔」として設定している。
- (委員) 地元に着した活動は大切である。「栗東市民ファースト」で良いと思うので、これまでのノウハウを活かして活動して欲しい。
- (委員) 平成 30 年度の展覧会の内容で、詳細が分かっているものがあれば教えてほしい。
- (事務局) 特集展示「(仮称) 村の学問」については、平成 29 年 11 月に、歴史民俗博物館が阿弥陀寺(栗東市東坂)から寄託を受けている算額が、滋賀県指定有形文化財として指定されたことをきっかけに企画した。
算額を紹介するだけでなく、江戸時代の栗東やその周辺で活動した医師・学者などに関連する資料を通して、江戸時代の栗太郡の村むらでの学問の広がりを紹介できればと考えている。
- (委員) 栗東歴史民俗博物館のホームページはどこが作成しているのか。
- (事務局) 歴史民俗博物館でコンテンツを作成し、栗東市役所のサーバー上にアップしている。
- (委員) 予算化も含め、栗東市役所内で体系立てて運営してもらったほうが効果的ではないかと感じる。
- (館長) 栗東市のホームページから、歴史民俗博物館のホームページにアクセスしにくいという課題はある。歴史民俗博物館が、スポーツ・文化振興課に所属しているということを知らない方も多く、見つけにくくなっているのは確かであり、広報のあり方を検討する中で考えていきたい。
- (委員) 平成 31 年 1 月に設定されている休室期間に実施する貸し館は、どういう事業を対象としているのか。
- (事務局) 財政再構築のために取り組んでいる(新)集中改革プランの一環として、歳入を確保する観点から貸し館に対応できる期間を設定している。展覧会への会場提供を前提としており、営利目的の事業はお断りすることとなる。利用希望者には事前に申し込んでいただくこととし、申し込みがない場合には、休室期間の直後に予定している特集展示「(仮称) 聖火が栗東を走ったころ」の前倒しでの開催など、歴史民俗博物館の展覧会開催事業とし

て開室する。

- (委員) 守山市では、「守山弥生遺跡見学会」という団体が、守山市内の各遺跡を紹介するホームページを作成している。守山市内の遺跡はほぼ紹介してきたということで、隣接する栗東市内の下鈎遺跡を取り上げではどうかという話が出ており、連携した展覧会の開催などが検討できるように思う。
- (委員) 栗東に住んで40年あまりになるが、以前、栗太郡の由来を調べたことがあり、歴史の面白さや奥深さを感じた。
栗東市は人口が増加しており、新しい住民が栗東に馴染むきっかけとして、地名の由来となった説話を紹介する機会を設けてほしい。
- (会長) 博物館講座「かまどめしを炊こう!!」や博物館教室「昔のくらし」などの事業で、そういった説話を取り上げる機会を設ければ効果的ではないかと感じる。
- (委員) 児童が多く参加する機会に取り上げてもらえればと思う。
- (委員) 現在開催中の特集陳列「源平布引滝」は、関西広域連合が中心になって実施している「関西文化の道事業」と連携しているのか。
- (事務局) 「関西文化の道事業」で作成された「ものがたり街道～三十三所巡礼～」で、源平布引滝や栗東市手原・手原駅が紹介されたことがきっかけとなって開催した展覧会ではあるが、直接的な連携はしていない。
- (委員) そういった事業と上手く連携すれば、集客につながるのではないか。

③その他

1. 平成29年11月3日（金曜日、祝日）に開催された市政功労者表彰式において、栗東歴史民俗博物館協議会委員として、長年にわたり博物館事業を通じた、文化財の活用・普及啓発の充実に寄与いただいた功績をたたえ、澁江 善光 委員と月野 みつ 委員が社会功労表彰を受賞されたことの紹介・報告。
2. 現在、スポーツ・文化振興課において見直しを行っている「栗東市文化振興計画」について、様々な分野からのご意見を頂戴するための「栗東市文化芸術会議委員」として、西尾 悦子 会長が就任されていることの紹介・報告。
3. 栗東市社会教育委員として、平成29年4月1日から2年間の任期中、栗東歴史民俗博物館協議会からの推薦として、澁江 善光 委員が就任されたことの紹介・報告。

3. 閉会

閉会のあいさつ（中野 光一 副会長）

ビジネスの世界では、失敗した場合であっても「再チャレンジ」という言葉が使われる場合があるが、歴史民俗博物館で収蔵している文化財の保全については、失敗が許されるものではない。

本日話題となったような施設・設備の老朽化については、改修にかかる経費など必要なものについてはしっかりと予算要求し、収蔵資料の保全に万全を期してほしい。